

イベント情報 (10月~12月)

電話 (04-2934-4396) で博物館までご連絡ください。
また、公式ホームページからもお申し込みできます。

今年もやります！
◆緑の森フェスタ2017
日 時：11月11日~17日 (土~金)
※13日 (月) は休館日
10:00~翌16:00
※最終日は15:30まで
対 象：どなたでも

年に1度のお祭りの日、みどり森で食べて遊んですごしましょう。土日は、地域の自然派食品のお店やツリークライミング体験会、ハンモック編み体験など色々なお買い物や体験ができます。他にもオカリナの演奏会や朗読劇の公演も開催予定です。また、期間中は、展示室では狭山丘陵をテーマにした写真や絵画などの作品展を行っています。入場無料なのでぜひ、お越しください。
★一部、有料のイベントもあります。詳しくは後日、HPやチラシでご案内しますのでご確認ください。

◆みどり森ガイドウォーク
当日募集型のガイドウォークです。案内所から大谷戸湿地周辺のみどころを1時間程度でご案内します。どんなテーマになるか当日のお楽しみに！
日 時：10/7 (土) 13:00~
11/14 (火・祝) 13:00~
12/10 (日) 11:00~
12/24 (日) 11:00~
対 象：どなたでも
定 員：15名
参加費：無料
要申込：当日10時から案内所に受付

秋のみどり森は、イベント盛りだくさん！今年も「緑の森フェスタ」を開催します。期間中の11月14日 (火) 埼玉県民の日には、ガイドウォークも実施しますので、是非、遊びにいらしてくださいね！
申込みが必要なイベントは、受付開始日がありますのでご注意ください。

◆みどり森 大人のスローキャンプ	日 時：10月28日・29日 (土・日) 10:00~翌11:00 対 象：大人 (20~40代) 定 員：20名 参加費：10,000円 (学生 9,000円) 要申込：受付中【10/14締切】
◆里山ようちえん「カエル組」	日 時：12月16日 (土) 10:00~13:30 対 象：H29年4/1時点で満4・5歳児と保護者 定 員：20名 参加費：親子2名で1000円1名追加ごと500円 要申込：11月16日から受付開始します。
◆里山体験教室「落ち葉掃きとごぼうひの焼き芋作り体験」	日 時：12月17日 (日) 10:00~12:30 対 象：小学生以上 (小学生は保護者と参加) 定 員：20名 参加費：300円 (保険代・材料費) 要申込：11月17日から受付開始します。
◆里山ようちえん「オタマ組」	日 時：12月20日 (水) 10:00~13:30 対 象：H29年4/1時点で満2・3歳児と保護者 定 員：20名 参加費：親子2名で1000円1名追加ごと500円 要申込：11月19日から受付開始します。 ※1か月前の11/20が休館日のため1日早く受付を開始します。
◆里山文化講座「お正月のしめ縄をつくろう」	日 時：12月23日 (土) 10:00~12:30 対 象：小学生以上 (小学生は保護者と参加) 定 員：20名 参加費：500円 (保険代・材料費) 要申込：11月23日から受付開始します。

さいたま緑の森博物館 ニュースレター はくぶつかんだより 27

秋、そして冬へ

10月から12月は、自然の様子がめまぐるしく変わっていく時期です。色とりどりに咲いていた花も終わり、実りの季節となります。動物たちは森を動き回り、来たるべき冬に備えてエサを食べ、栄養を蓄えています。

10月は、昼夜問わず、秋の鳴く虫たちが求愛合戦を繰り返して、冬鳥たちが越冬のため、次々にやってきます。11月は、紅葉と落葉の季節。コナラやクヌギの広葉樹の多いみどり森は、赤く色づく木が少ないため、黄色やオレンジ色に色づきます。12月は、林床が落ち葉で埋め尽くされます。落ち葉は虫たちの越冬の寝床にもなります。冬鳥たちはエサを探して落ち葉をめくっては、ガサゴソ♪ タヌキたちは冬毛になり、モコモコです。



もこもこタヌキさん

秋から冬へと自然が移り変わるみどり森は、その時期ごとに様々な発見があるはず。ぜひ、遊びにいらしてくださいね！

今号のニュースレターは・・・

秋の実りの季節！今号の特集は、だれもが親しみのある「どんぐり」です。みどり森には、どんなどんぐりがあるのか、ちょっとくわしく、ご紹介します！

みどり森 里山広辞苑

緑の森博物館がテーマとしている雑木林や湿地・文化などについて、毎号キーワードを挙げて紹介しています。今回は夏に行う作業である『田んぼの道具～収穫編～』です。

博物館からのお知らせ

～散策時の注意事項～

これからの時期、霜が降りるようになると、日中は霜がとけて、園路がぬかるむようになります。散策をする際は、足元に十分気を付けて、お楽しみください。

博物館の利用案内

◆緑の森博物館の利用ルール◆

緑の森博物館では、以下の7つのルールを守って楽しく過ごしていただくようお願いしています。

- 1) 植物や野鳥、小動物、昆虫等の生きものをむやみにとったり、傷つけたりしないでください。
- 2) 他から持ち込んだ動植物 (外来種) を放さないでください。
- 3) 原則として広場や観察路以外の場所に入らないでください。
- 4) 犬などのペットを放さないでください。(フンの後始末もしっかりと行いましょう)
- 5) 車道以外の場所には、自転車やバイクで入らないでください。
- 6) バーベキューや花火など火を使わないでください。
- 7) ゴミは持ち帰りましょう。

◆アクセス◆

- 公共交通機関をご利用の場合■
小手指駅南口より西武バス「宮寺西」または「金子駅入口」行き乗車、約25分「荻原バス停」下車、徒歩約10分
- 案内所までの地図■
右のQRコードを読み込むと緑の森博物館のHPのアクセスページが開きます。(一部、携帯電話では確認できない機種があります)
- ご来館時のお願い■
駐車スペースに限りがありますので電車・バスをご利用ください。



発行年月 2017年10月
発行 さいたま緑の森博物館
住所 〒358-0014 埼玉県入間市宮寺889-1
TEL/FAX 04-2934-4396
開館時間 9:00~17:00 【入館無料】
休館日 月曜日、祝日の翌日(その日が祝日の場合をのぞく)
公式HP http://saitama-midorinomori.jp/
指定管理者 株式会社自然教育研究センター

その22 田んぼの道具と収穫編

夏の暑さも和らぎモズが木の梢で「キーンキーンキチキチキチ」と高鳴きを始める頃、田んぼでは稲の穂が黄色くなり、刈り取りの時期を迎えます。

【稲刈りの道具】
《ノコギリガマ》
稲の刈り取りに使う鎌。

《昨年の稲わら》
刈り取った稲を乾かすために縛りまとめるのに使う。

《稲架(はさ・はざ)》
刈り取った稲を自然乾燥させるための木組みの稲掛け。

みどり森では・・・
みどり森には、八幡湿地と西久保湿地にそれぞれ田んぼがあります。

八幡湿地の田んぼは、八幡湿地保存会と三ヶ島小学校の五年生が稲刈りを行い、稲架にかけます。

西久保湿地の田んぼは、博物館のイベント「田んぼでお米を作るうー」で稲刈りを行う他、宮寺小学校五年生と早稲田大学の匠の会が稲刈りを行います。

どちらの田んぼも、谷戸の自然の「湿地」を利用して田んぼなので、深く、なかなか水が抜けないため、例年ドロドロの田んぼでの稲刈りになることが多いです。

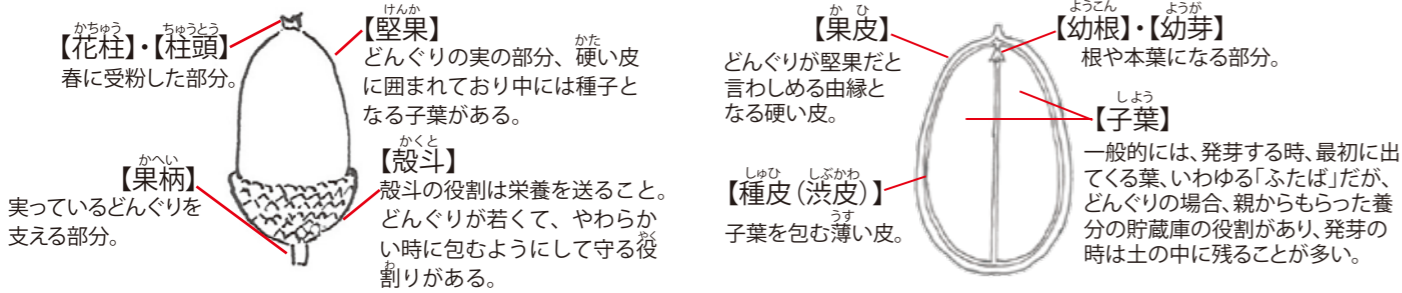
「どんぐり」みつけた!!

季節が秋へと移り変わってくると、道端などでどんぐりをみつける機会が増えると思います。みどり森でもたくさんのどんぐりが落ちていて、ついつい拾いたくなってしまいますよね。本特集では、そんな「秋の風物詩」である、どんぐりを紹介します。

どんぐりとは？

ブナ科ナラ属の木の実の総称を「どんぐり」と呼びます。その特徴は、いろいろな形の殻斗がつくこと。また、どんぐりは堅い皮におおわれていて熟しても割れません。このような実を堅果といいます。日本には20種ほど自生しており、そのうちの5種がみどり森にあります。

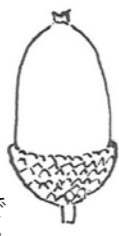
どんぐり大解剖!!



～雑木林の代表格～

コナラ

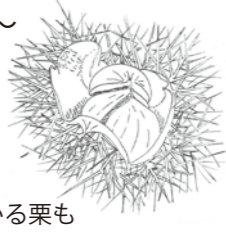
【大きさ】1.6～2.2cm
 【殻斗】細かいうろこ模様
 【特徴】雑木林で見やすく、みどり森でも一番多いどんぐり。形は弾丸型で実の先端にうっすらと毛が生える。



～実はどんぐりの仲間～

クリ

【大きさ】2～3cm
 【殻斗】とげとげ
 【特徴】秋の味覚として親しまれている栗もじつはどんぐりの仲間。実を包んでいる「イガ」は殻斗で、中の実がどんぐりにあたる。



～昆虫が集まる木～

クヌギ

【大きさ】2～2.3cm
 【殻斗】粗いとげとげ
 【特徴】コナラについて雑木林で見やすく、みどり森でもよく見られる。形はほぼ球形で他のどんぐりと比べると大きい。



～みどり森に多いカシ～

シラカシ

【大きさ】1.5～1.8cm
 【殻斗】6～8個の輪、灰色の細い毛
 【特徴】みどり森で多く見られるカシのどんぐり。形は卵形で殻斗には6～8個の輪があり、灰色の細い毛が密生する。



～みどり森では珍しいカシ～

アラカシ

【大きさ】1.5～2cm
 【殻斗】5～7個の輪、灰色の毛
 【特徴】みどり森には少ないどんぐり。形は卵円形で濃い色の縦縞模様が目立つ。



どんぐりをめぐる物語～食べつくされないために～

どんぐりには脂肪、タンパク質などの栄養分が詰まっています。多くの生きものたちの格好の食糧となっています。そんなどんぐりですが、全部食べつくされてしまったら子孫を残せません。どのように食べつくされないようになっているのでしょうか？

作戦その1：渋味成分タンニン

どんぐりをかじったことはありますか？コナラやクヌギはとても渋いです。これはタンニンという成分があるから。タンニンは植物が作り出す毒の一種。猛毒というほどではないけれど、苦味はどんぐりを食べる昆虫や動物たちの食欲をそいで、一度にたくさん食べられるのを防いでいるのです。

苦くてちょっとしか食べねえ



アカネズミの戦略：タンニンを食べ慣れる？

ある実験では、ネズミにどんぐりを少しずつ食べ与えると、唾液から特殊なたんぱく質が出て、腸内の乳酸菌の一種が増え、タンニンの分解を助けているという結果が出たそうです。ネズミには、苦いどんぐりでも食べられるようになる体の仕組みがあるのですね。どんぐりのタンニン作戦も効果なし？

少しづつ体を慣らすのがポイントよ。

アカネズミ

作戦その2：ピンチはチャンス!?食べられることを利用する

森に生息するネズミやカケスなどは「貯食」という習性があり、冬の食糧としてどんぐりを運んで蓄えます。そのどんぐりが、もし春まで食べ残されれば、どんぐりにとって新天地で芽を出すチャンスになります。たくさんのどんぐりが運ばれることで、どんぐりは分布を広げることが出来るのかもしれない。食べられることを利用した巧妙な作戦ですね。

どんぐりにあやつられているのか？



作戦その3：豊作年と不作年（結実変動）

どんぐりには大量にどんぐりが実る「豊作年」と、少ししかどんぐりの実らない「不作年」があります。しかも、森全体あるいは山全体が豊作不作というように、同調する傾向があります。不作年、森ではどんぐりを食べる昆虫や動物たちが食糧不足で数が減ります。すると次の生り年には、動物たちの食べ残しも増えるのです。年による結実量の変動は、どんぐりを食べる動物たちの増え過ぎを抑え、どんぐりを食べつくされないための作戦と言われています。

ゾウムシとの攻防!!

ゾウムシの仲間であるハイイロチョッキリやコナラシギゾウムシは、どんぐりに産卵する昆虫です。幼虫はどんぐりを食べて成長すると外に出て、土の中で冬をこし、休眠期間を経て夏に羽化します。ところが、コナラシギゾウムシでは、1年目に羽化しないものもいるのだとか。どんぐりの不作にあっても全滅しないためかもしれません。敵もさるもの…ですね。

タイミングをずらすといいんだぞ～

コナラシギゾウムシ

～おねがい～

さいたま緑の森博物館は野外の動植物が展示の野外博物館です。次に来た時も観察ができるように動植物の採取等はご遠慮下さい。今回、紹介したどんぐりも、森の生き物たちの食糧になったり、次世代の木になります。どんぐりを拾ったら、たくさん持ち帰ったりせず、帰るときは、森にかえしてあげて下さいね!